

「聴いて・考えて・つなげる」通信



漢字テスト→ 1年生も3年生も同じように毎日やっておられるようで、子どもたちは流れをしっかりと把握して動くことができていました。どの子どもちゃんと動きが理解できているので、「どうやったらもっと点数取れるんやろ。」「これ、やばいな」「最高点数や！」などの、自分たちの学習の工夫へのお話をしていました。1年生より、3年生の方が学習の習慣がついているのか、さっと見た感じが伝わってきました。積み重ねは大切です。

国語科



教材「握手」 井上ひさし

音読→音読にはルールがあり、子どもたちはテンポよく、先生の指示がなくても次々と順序良く読み進めていました。その時間で一気に国語の授業への雰囲気が出来上がっていきます。この音読のルールのみだと、他の授業でも同じようにできるのでは？教科間で少し情報共有するだけでいろいろつかえるなあと思いました。

課題 ルロイ修道士はどんな人か考える

エピソードをしっかりと考える。穴埋め形式のプリントを使ってまずは教科書を理解する。その時面白かったのが、教科書を読むときに、数人の生徒に配役を決めもう一度音読をさせていました。配役を決めることで、イメージをつかみやすくなり物語に入り込みやすくなると感じました。この後、エピソードをしっかりと自分で10秒確認、ペアで20秒話す。ということを何度か繰り返すことによって、全員がしっかりと確認できました。そのあと。「ルロイ修道士はどんな人物だろう？」という開かれた質問をすることで子どもたちの意見を求めると、自分の経験から、自分の思いなども含めて答えるので、とても興味深く観察しました。黒板とテレビの画面をとても有効に使っていたのが印象的です。



教材 「竜」 今江 祥知

音読→ルールがありました。私は単発での参加だったので、はじめはルールが分からなかったのですが、「間違わずに決められたところまで読む。間違ったら次の人。」「読む量は間違えずに読む場合、一定の量が設定されている目標までノーマスで読むと合格というルールで、しかも当てられる人は名列表を使ったルーレット方式。ドキドキしました。(笑)でも、決められた分量があるので、次に習うところも読みます。音読が終わったあとも区切りの良いところまで、自分で読んでいる生徒がたくさんいました。知らず知らず予習、復習になっていると思いました。

課題「立札を書こう」 ※村人が伝えたいいきさつを書いた立札をかく

という課題ですが、この中には村人にかわり初めての人にもわかるように。どんなことを伝える？村人はどんな気持ち？なぜこの立札を建てようと思ったのか？など、とてもたくさんのが含まれていて深く面白かったです。

具体的に言うと、※自分の思いではなく、村人の思いを代弁する。あらずじではない（ここがポイント）→でも子どもがどんなところに共感し、伝えたいかは分かる。

※答えは一つではなく、色々な表現方法がある。

※実際に立て看板のスケッチを書くという課題にすることによって、

村人の立場に立ちやすかったり、決められた範囲の中に納めなければいけない。

このことから言いたいことを選択する力がつく。

※初めてその立札を見た人に訴えるという目的があるので、目立つ、読みたくなるような内容などの工夫

いろんなことを の課題から読み取って子どもたちは頑張っていました。(もちろんその前の授業などからのつながりもあると思います)そして、誰一人として同じ答えにはならず、しっかり理解できている子も、しんどい生徒も同じ温度で授業に取り組んでいました。改めて生徒への課題と教師のねらいを意識した課題の設定の大切さを考えさせられる授業でした。課題に対していろんな補足をしません。まずは生徒が自分でやってみてから個別に質問していました。このやってみてという時間の大切さを私は

の授業から感じました。もし、この時間がなく質問が出ないくらいに説明していたら、きっとみんな同じ模範的な立札を書いたことでしょう。でもその中にいろんな個性が光ることはなかったと思います。次の時間に立札を完成させるそうなのですが、私は是非その立札を見たいと思いました。

